

令和5年度

病害虫発生予察情報 第10号

注意報第3号

北海道病害虫防除所 令和5年(2023年)7月13日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshoh/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

葉いもちが早期に発生する可能性大！！

水田観察を励行し、防除適期を逃さないようにしましょう！

岩見沢市、比布町及び北斗市の予察田で平年より早い葉いもちの本田初発が確認されました。7月2半旬には比布町および北斗市で発病株率が急激に高まっています。

札幌管区气象台による7月6日発表の1か月予報では、8月7日まで日本海側の降水量は平年並か多いと予報されており、今後感染と発病に好適な条件となりやすいと予想されます。そのため、葉いもちの初発を見逃さぬよう、水田の観察を励行し、初発を確認した場合はすみやかに防除を実施してください。

1. 発生地域 全道

2. 予想される発生時期 早

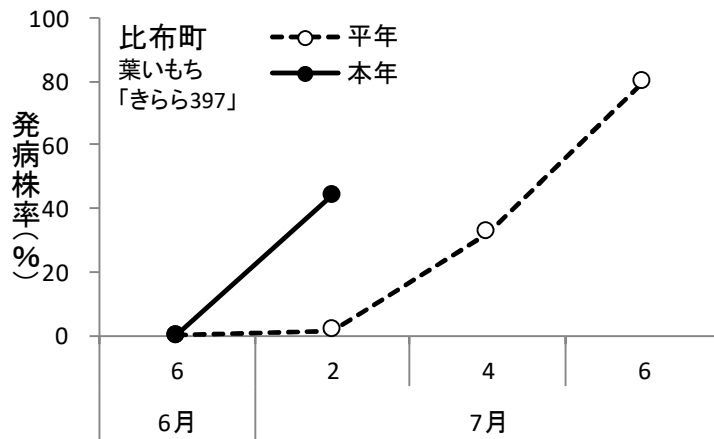
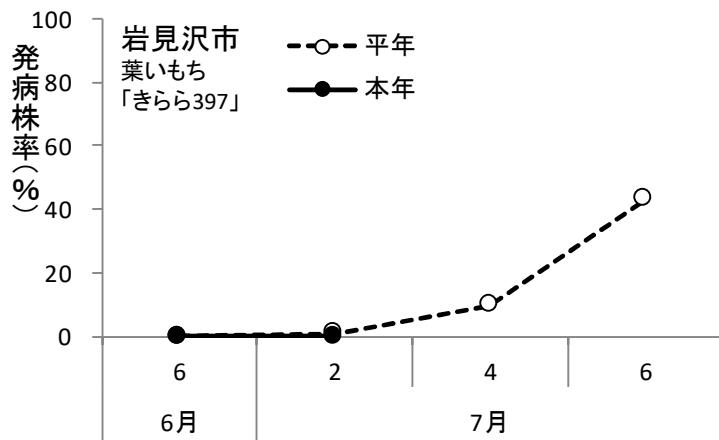
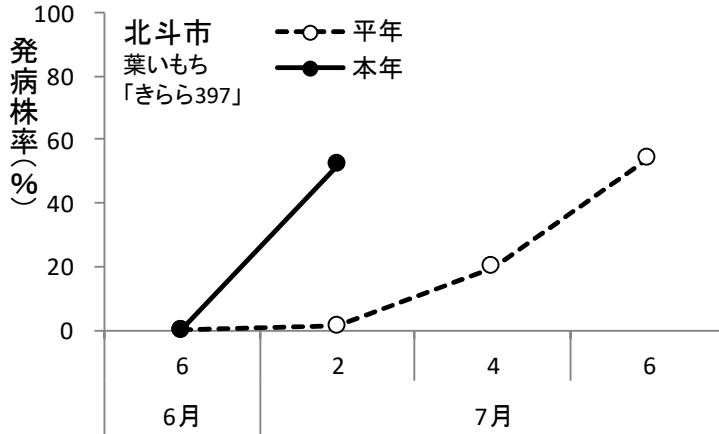
3. 予想される発生量 多

4. 注意報発令の根拠

- 1) 予察田における本田の葉いもちの初発は、岩見沢市で7月10日(平年:7月18日)、比布町で7月6日(平年:7月14日)、北斗市で6月15日(平年:7月15日)と平年より早かった。
- 2) 予察田における7月2半旬の葉いもちの発病株率は、岩見沢市0%(平年:0.8%)で平年並、比布町で44%(平年:1.6%)、北斗市で52%(平年:1.0%)と平年より高い(図1)。
- 3) 本病は弱い雨が長期間続いたり、寡照によって水稻の抵抗力が低下すると多発しやすい。発病適温は20~25℃であり、初発危険期は平均気温が20℃、最低気温が16℃に達した頃とされている。
- 4) 7月6日発表の気象予報によると、向こう一か月の天候の見通しは8月7日までの気温は平年より高く、降水量は日本海側で平年並か多く、オホーツク海側と太平洋側では平年並と予報されている。

5. 防除対策

- 1) 水田の観察を励行し、葉いもちの早期発見に努める。
- 2) 取り置き苗が本田や畦畔に残っている場合はすみやかに処分する。
- 3) 葉いもちの病斑を発見した場合や近隣で発生が確認された場合には直ちに防除を開始し、1週間間隔で出穂期まで防除する。
- 4) 水面施用剤の使用を予定している場合は各薬剤の施用適期を逃さないよう注意する。



注) 横軸は月・半旬を示す
 岩見沢市の初発(7/10)は調査外株で認めた

図1. 予察田における葉いもち発生状況